

〇〇四年の一年間で七万四〇〇〇件のデモや暴動、不穏な事件が起き、二〇〇五年にはその数が八万件を超えている。また、退役した軍人や現役の軍人などが待遇改善を求めて、一万人のデモをやったという話もある。

軍に突き上げられている胡錦濤政権

一方最近の軍事の状況を見ると、国内的には「小康社会」「和諧社会」といった響きの良いことを言っているが、対外的には大変な軍事強硬路線を突っ走っている。胡錦濤政権が、軍に突き上げられていると同時に、軍事拡大路線に乗ることとで、国内の社会不安を引き締めていかざるをえないという状況に置かれているといえよう。この点で注目されるのが、中国共産党内部の権力闘争の動向である。中国ではこのところ、権力内部の汚職摘発が強化されている。二〇〇六年六月、江沢民前主席側近の劉志華、北京市副市長や、同じく王守業、海軍副司令員が摘発され、黄菊副首相（元上海市長）夫人にも疑惑が発せられるなど、江沢民前主席らの保守派「上海閥」の影響力を排除しようとする動きが目立っている。九月下旬には、上海のトップ職員や、上海市党委書記（党中

く自由に行動できないようになっていた。北京オリンピックの成功によって国威を最大限に発揚したあとの二〇〇九年には、水質汚染や生ダムが完成する。すでにダム本体はこの夏に竣工しており、ダムのある長江に沿って、現代の万里の長城^①という意気込みで進めている大国家プロジェクト、上海から重慶までのスーパーハイウェイが二〇〇九年に貫通する予定だ。翌二〇一〇年には上海万博がある。上海万博は、北京奧運（五輪）に対抗して上海市が全力を傾けるといつているが、最近の「上海閥」の凋落傾向や北京上海新幹線の未完成、浦東国際空港までのリニアカー（上海磁浮列車）の速さに逆比例する通関手続きの非効率などを見ていると、果たして上海万博が順調にゆくのかどうか心もとない。いずれにせよ、中国は当面、二〇〇八年から二〇一〇年に至る大国家プロジェクトを打ち出し、ナショナリズムを高揚させ、国威を発揚する以外に国内に累積した矛盾の暴発を抑える法はないといえよう。もうひとつの重要問題として、私がなぜ二〇〇八年に注目するかというと、実は中国が最大の関心を持っている台湾問題をめぐって、きわめて危

央政治局員）が不正融資事件から解任された。「人民日報」に出る改革派学者らの論文や座談会が同じ「人民日報」のサイトで批判されるなど、注目すべき兆候も出ている。

一方では、この八月、全三巻から成る「江沢民文選」^{＊4}が出版され、外文出版社や人民文学社などでも宣伝されていて、中国民衆にも不人気な江沢民の権威を宣揚しようとする動きも目に付いている。特に、人民内部から中国共産党の正統性を脅かしつつある法輪功を弾圧した江沢民の業績をあえて称えていることも、中国共産党に宿命的な権力闘争の一環であるような印象を受けざるをえない。

ポスト二〇一〇年、迫りくる危機

こうして中国はいよいよ重要な政治的・社会的局面を迎えつつある。その中で私は、二〇〇八―一〇年問題を特に強調したい。二〇〇八年には北京オリンピックが行われる。中国当局は、約二八〇〇億元（約四兆円）を投資してオリンピックの成功に賭け、二〇〇六年三月には新たに「治安処罰法」を施行し、武装警察や民間警備部隊を大量に増員している。すでに、天安門広場は完全に公安管理下にあり、観光客も市民も広場に入れば全

機能的な状況がおとずれられるかもしれないからである。二〇〇八年は、夏に北京オリンピックが開かれると同時に、春には台湾で総統選挙が行われる。中国は二〇〇五年三月に「反国家分裂法」を国内法として制定した。台湾が憲法改正、国名変更など民意によって独立の方向を明らかにした場合にも、武力介入するという法律である。この「反国家分裂法」の制定自体を見ても、胡錦濤体制がいかに軍に振り回されているかが推測できよう。そして中国当局は、二〇〇五―〇六年の中露合同軍事演習が台湾上陸作戦を含んでいたことに示されるように、台湾海峡で火を噴くかもしれないことを想定しながら、着々と軍事拡大路線を進めている。「小康社会」「和諧社会」と言いながら軍拡に走るという矛盾を抱えるこうした二〇〇八―一〇年までの非常に難しい時期を、はたして胡錦濤体制が乗り越えられるかどうか。あるいは中国の経済発展自体が、経済の超過熱化の中で破綻し、エネルギー不足も手伝って、中国パプルのきわめて大規模な爆発に至るかもしれない。波瀾含みの大国家プロジェクトが完了するとしても、それに続く二〇一〇年以後の中国の危機に注目せざるをえないゆえんである。

＊4 江沢民文選

江沢民前国家主席が次官級のポストに就いた八〇年から四〇年九月に党中央軍委委員主席を辞任するまでの間に著した文章や講演など二〇三編を収録した全三巻の文庫で、〇六年八月に中国全土で発売された。そのなかには九八年一月の訪日の三月前前に在外大使らを一堂に集めた会談の席上、「日本に対しては歴史問題を永遠に言い続けなければならない」と指示し「日本の軍国主義者はきわめて残忍で（戦争中の）中国の死傷者は三五〇〇万人に上った。戦後も日本の軍国主義はまた徹底的に清算されていない」と語った演説も収められている。

＊5 三聯ダム

一九九九年に孫文が提唱し、共産党政権が受け継いで長江中流域の湖北省宜昌市に建設した世界最大級の水力発電。水連・洪水防止を目的としたダム。九一年に江沢民政権の下で建設が決議され、九四年に着工。ダムの堤防本体は〇六年五月に完成した。総工費は約一八〇〇億元（約二兆五〇〇〇億円）。貯水湖は全長六六〇キロで、ダム工事のために移住した住民は一三万人に及んだ。正常貯水量は九三億㎥、ダム式では世界最大の出力一八一〇kW（日本の黒部第四ダムの約五四基分の）発電所を備える。

筆者が推薦する基本図書

- やがて中国の崩壊はじまる「ゴードン・チャン／原百代＋服部清美＋渡会圭子訳（草思社）」
- 「帝国としての中国」胡錦濤の論理と現実（中西輝政（東洋経済新報社）」
- 「中国暴発——なぜ日本のマスコミは真実を伝えないのか」中嶋謙雄＋古森義久（バジネス社）」

日本の 論点

文藝春秋編

THE ISSUES FOR JAPAN



日本の 論点

文藝春秋編

日本の 論点

THE ISSUES FOR JAPAN



論文の教科書

2007

2007

特別
収録

そうだったのか! 誰も知らなかった
世界の常識、日本の非常識

唯一の論争誌『日本の論点』だから実現した最高の執筆陣

政権交代——日本はどう変わるのか? 直面する全課題と解決

文春ムック
凸版印刷株式会社印刷
Printed in Japan

定価2800円(本体2667円)
雑誌67811-25

ISBN4-16-503060-0
C9430 ¥2667E



97841



19294